

大学入学共通テストの探求 ③

〔地理B(第1日程) 第3・4問の分析を通して〕

後藤 泰彦

一 第3問

「都市と人口」から6問が出題された。人口100万人以上の都市の分布(問1)、国全体の人口と人口第1位の都市の人口を年齢3区分別でみたもの(問2)、インド系住民の分布(問3)、居住者のいない住宅(問5)、タイペイの交通網の変遷と、バラエティに富んだ問いが図表の読み取りを中心として出題された。

地理的な知識をいかに図表の読み取りへつなげるか。いわゆる地理的思考力を問うものであった。平均11・5点/配点20点。

ピックアップ1題 問4 17

島嶼部を除く東京都における人口増加率を、年代および地域(市区町村)を区切った地図資料を基に問われた。都市の拡大(郊外の開発)や人口の都心回帰などについて時系列を追って考えさせており、資料から「なぜ」を抱かせ推論を求める「探究活動」を再現した1題だった。

第4問

「アメリカ合衆国」に関する地誌的な内容から6問(マーク数7)が2パート構成で出題された。Aパートでは人口重心の移動と要因(問1、マーク数2)、取水量の水源別割合と使用目的別割合(問2)、同程度の緯度・面積の州をハイサードグラフと作物の年間生産量で比較した組合せ問題(問3)、ミシガン州とワシントン州の州全体と人口最大都市の人種・民族別人口構成(問4)、Bパートでは社会と経済の多様性に関する2題が出題された。平均12・1点/配点20点。

ピックアップ1題 問6 26

過去の大統領選挙に関する各州の選挙人数と選挙人を獲得した候補者の政党を図形表現図で提示し、これを考察した文章を用いて穴埋めする問題形式によって、アメリカ合衆国における産業地域の特色や産業構造の変化を考えさせている。地図化して考察する意義

を示していた。

二 紙上ディスカッション

以下、自由参加形式で意見交換したもの概要として報告する。

蒼下(下関南高校) 第3問・第4問は、モデル化された抽象問題や判断を迫体験する問題といった、学ばなくても解ける(学んでいても戸惑う)問題を抑えており、従来のセンター試験の出題パターンから大きく乖離はないが、素材は時事的動向を基にした地理の学習事項を土台とした思考力を問うものが多い。

宅島(広島大・院) 第4問は、問1(1)で現象を把握し(2)で原因を探究するという流れや、Bパートのテーマ設定など、「現代世界の地誌的考察」の具体的な学習場面が想定されている。「地名物産」と揶揄される現状を打破し、「探究」を導くよう、洗練された大問構成を期待する。

中村(鳥取西高校) 第3問の間6は、海外の都市交通整備の変容を切り口に、都心・副都心・郊外といった概念や交通機関の特徴を問う良問。地図やグラフを論理的に読み取る場面を設定することが、授業づくりを求められている。出題地域と他地域を比較できる力を

養うべき。

井上(川崎高校) 第4問の間4について、ミシガン州とワシントン州の判断は難しくないが、デトロイトとシアトルまで判断させたのはより深い理解が求められる。州と都市で人種・民族構成にこれほどの差が見られる背景は何か、普段の授業場面において丁寧な指導が求められる。

山口(上五島高校) 第3問の間4は正答率が26・2%と低かった。その背景として、図の人口密集地と表の統計を結びつけて、地域の性質や特徴を思考する必要があることが挙げられる。資料や統計をもとに地域を考える探究型の授業が求められる。

首藤(広島井口高校) 第3問の間2は国全体及び首位都市の年齢別人口構成比について、都市や人口に関する概念の知識と国ごとの知識を組合せて考察する良問。第4問の間4と同様、切り取る地域のスケールによって見える特徴が異なることを意識させる授業展開が求められる。

※平均点・正答率は、ベネッセ「大学入学共通テスト徹底分析」を基に算出。

(千葉県立佐倉高等学校)